

《教育長メッセージ 第23号》

『鳥』

私は、ちょっとした鳥好きです。

ほとんどの鳥は名前がわかります。そして、鳥を楽しむことができます。

子どもの頃、地元のお医者さんが作った「志津川愛鳥会」という今で言えば社会教育団体のようなものに入っていました。

毎週、「探鳥会」と称して、会の人たちと鳥を探して野山を歩きました。すべてを覚えるほどに鳥の図鑑を見ていましたから、初めてその本物を目にするときは、ただただ「すごい」と興奮しました。鳥たちは、よくよく見るとどんな鳥でもきれいなのです。毎日、会うことができるスズメも、ほっぺが可愛らしく、美しい羽毛で被われているのです。

今の時期、ときどき、ハヤブサやチョウゲンボウが市役所5階の窓の外を横切ります。シベリアの大地からやって来ただろウツグミが市役所南側の原っぱを散歩しています。市役所にいるだけで多くの鳥たちに会うことができます。

私は、このように思っています。

草花でも、木々でも、雲でも、山でも、空でも、星でも、魚でも、鳥でも、何かひとつのことに興味や関心を持って、それを詳しく知ることやそれに親しくなることは、普通には見えないものが見えてきて、心を安らかにしたり、豊かにしたりすることができるのではないかと。

もちろん、洋服や車などでもよいのですが、私は自然に関するものがよいと思っています。

海老名は、まだまだ自然がいっぱい残っていて、それが魅力のひとつです。私は、海老名の子どもたちに、身の回りの自然に触れ、自然の営みから季節を感じる人になってほしいと願っています。

私がどうだということではありませんが、私は、子どもの頃に出会った「志津川愛鳥会」に大切なものをいただきました。海老名の子どもたちにも、学校教育というよりも社会教育の中でそのような出合いを演出できればと思っています。

そして、みなさんは、めまぐるしく動く社会を生きる中で、日々、多忙な時間を過ごしていることでしょう。そんな中でも、道ばたの草花や飛び交う鳥たちを、大山丹沢富士の山々や夜空の星を、楽しんでいただければと思うのです。



私は、多くの人と鳥たちに救われているなあと思うのです。

次回は、『小中一貫教育』について私の考えを述べてみたいと思います。